2024年3月10日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書22章31～46節

説教：誘惑に陥らないように祈っていなさい

はじめに

31日のイースターに向け、今日から四回に分けてイエスの十字架と復活について聖書から見ていきます。前回はイエスは終わりの日のことについて語ったところを見てまいりました。それから間もなくして、イスラエルは過越の祭りを迎え、イエスは弟子たちと一緒に過越の食事をされる。その最後の晩餐と呼ばれる席でイエスは、この食卓には自分を裏切る者が座っていると告げます。すると弟子たちは口々に「私ではない」と言い、とうとう「だれが一番偉いか」とまで争っていく。それが今日の箇所の背景になります。イエスはもうすぐ迫ってくる十字架を前にしてどのようなことをされたのか。そこにどんな恵みがあるのか。ともに見てまいります。

１　シモン・ペテロへの忠告

１）三度わたしを知らないと言います

「だれが一番偉いか」と言い合っている弟子たちにイエスはこう言われます。32節。「しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」ペテロはこれを聞いて猛然と抗議する。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」

ペテロのしていることは日本に古くからある義理人情そのままで、親分であるイエスに一番弟子の自分はどこまでもついていく。たぶんペテロは本当にそう思っていたのでしょうし、イエスからお褒めのことばをいただけることさえ期待していたのかもしれない。ところがイエスの答えは意外なものでした。34節「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」これを聞いたペテロの反応は書いていませんが、おそらくこう思ったでしょう。「この俺がそんなこと絶対するわけがない。親分はわかっていない。」

２）わたしはあなたのために祈りました

そんなシモン・ペテロに対してイエスはあらかじめこう語っておられました。31，32節。「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

イエスがどんな順番でペテロに語っておられたのか、注目していただきたい。ペテロが「あなたのためなら、たとえ火の中水の中」と忠誠心を示した後で、「あなたのために祈った」と言ったのではない。そうではなくて、弟子たちが誰が一番偉いのかと勝手なことばかり言ってイエスのことなどほとんど眼中にないようなそんな状態の時に語ってくれていた。

３）剣を買いなさい

イエスのことばは続きます。36節。「しかし今は、財布のある者は財布を持ち、同じように袋も持ちなさい。剣のない者は上着を売って剣を買いなさい。」

弟子たちが、「ここに剣が二本あります」と言うと、イエスは「それで十分」とも答える。この後すぐにイエスを捕まえるために武装した群衆が来ますから、それに備えなえなさいということなのか。でもイエスは別のところで「剣を取る者はみな剣で滅びます」（マタイ26章52節）と、またく正反対なことを言っておられた。これはどういうことかと不思議に思います。このことはまた後で触れたいと思います。

２　イエスの祈り

１）石を投げて届くほどのところで

そんなやりとりをされてから、イエスはエルサレムのすぐ近くのオリーブ山の麓に広がるゲッセマネの園にやって来ると、「石を投げて届くほどのところ」に離れて祈り始めます。弟子たちのすぐそばではなく、石を投げて届くという微妙な距離をとられたのには何か深いわけがありそうです。そのことはまた後で見ることにして、その前にイエスの祈りを見ていきましょう。

２）この杯をわたしから取り去ってください

イエスはこう祈ります。42節。「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころが

なりますように。」杯とは十字架のさばきのことです。

ヨハネの福音書6章38節にこうあります。「わたしが天から下って来たのは、自分の思いを行うためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行うためです。」父なる神のみこころとは、まさに十字架のことです。極端かもしれませんが、イエスの頭は金太郎飴のようにどこを切っても十字架のことだけしかないと言っていいほどです。ところが、その肝心の十字架が間近に迫ると「この杯を取り去ってください」と祈られる。これまで威勢のよいことを言ってきたけれど、いざとなると急に怖くなったのでしょうか。それなら、逃げて行った弟子たちと変わりません。この後、「わたしの願いではなく、みこころがなるように」と言ってはいますが、なんだかイエスの気持ちが揺らいだような印象は拭えません。もしそうなら、これはイエスにとって都合の悪い真実ですから聖書に書くべきではない話しのはず。ところが堂々と、それも詳しく書く。そうすると、急に怖くなったからという単純な話しではなく、もっと違う理由がありそうです。このこともまた後で触れることにします。

３）どうして眠っているのか

さてイエスがこのように祈っている間、弟子たちはどうしていたか。悲しみの果てに眠り込んでしまった。イエスの祈る姿を見て悲しくなったというところは良いとして、眠ってしまうのはどうなのか。わざわざ「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と命じられていたのに、このありさま。イエスはこれまで何度も祈ることの大切さを強調しておられました。前回見ました21章36節ではズバリこう言っていた。「いつも目を覚まして祈っていなさい。」それなのに弟子たちはいとも簡単に眠りこけてしまう。ついさっき、「あなたのためならたとえ火の中、水の中」と威勢のよいことを言っていたペテロはどうしたのか。なんとも情けない弟子たちではあります。

３　弱い者のために

１）私たちは誘惑に陥るけれど

ここまで見てくるなかで、疑問点を三つ挙げておりました。一つ目。他のところでイエスは、「剣を持つものは剣で滅びる」と言っていたのに、ここでは「剣を買いなさい」と急に変わってしまうのはどうしてか。二つ目。なぜイエスは石を投げて届くほどのところで祈ったのか。三つ目。イエスは十字架のさばきを受けるために来られたはずなのに、「この杯を取り去ってください」と祈ったのはなぜか。

どれも難しい問題のように思えます。ところがイエスはちゃんとヒントを与えてくださっている。イエスはこう言っていた。40節、「誘惑に陥らないように祈っていなさい。」これが問題を解く手がかりです。どういうことか。

弟子たちはずっと以前からなんども忠告されていたのに、イエスが苦しみながら祈っている最も大事な場面で眠り込んでしまいました。「情けない弟子たち」と言うのは簡単ですが、では私たちは弟子たちのことを笑えるか。罪が何であるかを口が酸っぱくなるほど教えられているはずなのに、でも気がついたらいつも罪を繰り返してしまう自分がいる。そのことで悩んでいる人がたくさんいる。そこで気がつくわけです。私たちもあの弟子たちと同じだった。そんな私たちは、どうしたらよいのでしょう。

２）しかしイエスが祈ってくださる

いまは眠りこけてしまっている弟子たちに対しイエスは、こんなことになる前からあらかじめこう言ってくれた。32節。「わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

「ご主人のためならたとえ火の中水の中」と威勢のよいことを語っていたペテロが、この後間もなくイエスを三度否定していきます。そんなペテロの弱さをよく知っておられるイエスは、ペテロを責めるのではなくむしろペテロを力づけていくのです。「わたしはあなたのために祈りました。」ペテロのために祈られるイエスは、もちろん私たちの弱さのためにも祈っておられます。

３）イエスの祈り：誘惑との戦い

なぜイエスは、弱い者のために祈ることができるのでしょう。この方が人となられて、私たちが経験するすべの弱さ味わったからではないですか。どのような弱さ味わったのか。「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。」この祈りです。どうしてそう言えるのか。

この祈りを喜ぶ勢力がいたということを思い起こしてください。悪魔です。もしイエスの十字架がないということになれば悪魔は大歓声を上げます。そう考えると、「杯を取り去ってください」という祈りはイエスにとって大きな誘惑だったということになる。悪魔の誘惑に陥るかそれともそれに打

ち勝つのか、ギリギリの戦いをしていた。イエスは、血のような汗を流しながら最後にこう告白します。「しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」ご自分を捨てて誘惑を退けた。まさにイエスご自身が「誘惑に陥らないように祈ってくださっていたのです。だから、私たちがどんなに誘惑に弱いかわかってくださる。

ここで答えが見つかります。なぜイエスは「この杯を取り去らせてください」と祈ったのか。私たちの弱さと一緒になるためでした。

では、なぜイエスは石を投げて届くほどのところで祈ったのか。この祈りがイエスにだけしかできない祈りだったから。もっと言えば、非常に危険な戦いがそこにあった。弟子たちを守るためにあえて離れて祈ったのです。

４）もはや剣ではなく

では最後に残ったもう一つの問題。なぜイエスは剣を買いなさいと言ったのか。イエスは十字架を止めようとする悪の力と戦っておられました。その戦いに勝つために何が必要なのでしょうか。弟子たちは思った。たとえイエスを捕まえようとする者がいてもこの剣で立ち向かう。しかし彼らはどうなったか。剣を持っていたのに、誘惑に勝てずに眠り込んでしまった。これでなにがわかったでしょうか。剣は何の役にもたたなかった。イエスがなぜ「剣を買いなさい」と言われたのか。剣で戦えという意味ではない。剣は何の役にも立たないことを教えるために、あえて剣を持たせたということです。

では悪の勢力が襲いかかってくる時、なにをもって戦えばいいのでしょう。イエスご自身が教えてくれました。あなたがたがより頼めるのはイエスしかない。なぜなら、私たちと同じように弱くなられて悪魔の誘惑を受けられた方が、ご自分を捨てて誘惑を退け、私たちのために祈ってくださっている。これほどの強い味方がいるでしょうか。

「気をつけなさい」と言われても私たちは失敗します。でもそこで悲しむ必要はありません。「できないと」言えたところに実はイエスが立っておられる。この方に力づけられながらまた一週間を歩んで参ります。